

グリーティング

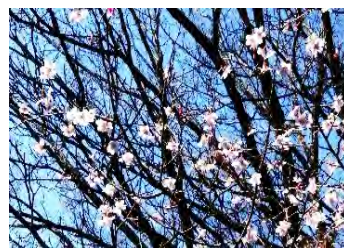
桜の開花が待ち遠しいですね。全国約100ヶ所の气象台や観測所で標本木のソメイヨシノを観察し、5、6輪が咲くと、その地での開花が宣言されます。日本人の気持ちが集まる不思議な高揚感が列島を覆います。

桜はバラ科サクラ属で北半球の温帯に広く分布しています。平安時代には花見の宴なども盛んで、多くの和歌が詠まれました。当時は山桜が人々を楽しませていたようです。

江戸時代後期に栽培品種のソメイヨシノが作られました。昭和の高度経済成長期には全国で多く植えられ、今では桜といえばソメイヨシノをさすことがほとんどです。

花冷え、花嵐、花明かり、花筏… そして、桜餅、桜エビ… 等々。日本人の生活や文化をいちばん実感させてくれる花ではないでしょうか。コロナ禍のお花見、それぞれがそれなりに桜を愛で春の到来を喜びましょう。

S. K



3月17日朝、ソメイヨシノを探して津久井湖畔を歩きました。咲いていたのはヤブザクラでした。

技工情報

◎石膏における練和方法の影響

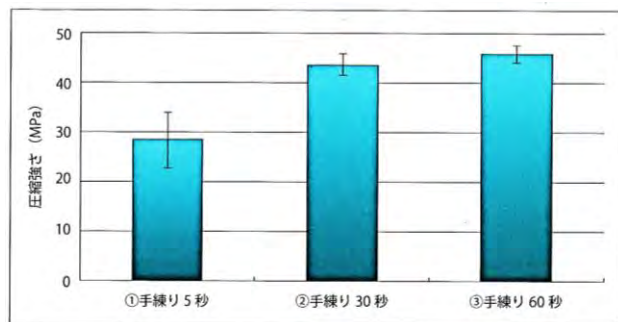
ある限度内において(最長120秒程度)で長く練和を行うと、硬化反応が均一に促進して、模型の精度と強度の向上につながります。

操作性と諸物性を考慮すると60秒程度が望ましいとされていますが、これは、各石膏製品の諸物性の公表値というものがJISにて定められている60秒練和の値となっています。

短時間での練和による石膏注入は、練和不足による強度低下によって模型の破折や、硬化遅延による模型印象面の荒れを招いてしまいます。

又、石膏の練和泥も均一とはいかず、結果として不均一な硬化膨張につながって模型精度を損なう事になります。

但し、60秒の手練和を実施する事は、負担が大きいと思われ、昨今では、石膏粉と水とのなじみもスムーズな製品も多くなり、以前と比べ短時間でも十分な練和も可能となっています。



ニュープラストーンⅡ混水比(0.23)における練和時間と強度の関係、強度測定は、練和開始から1時間後に実施した。

30秒程度で、60秒練和と同等の結果が得られる物もあります。

硬化体の寸法安定性、模型印象面、強度等の向上を求めるとすれば、最低でも30秒練和が望ましく、その結果、粉末の凝集がなくなり、凝集体から発する微小な気泡も減少し作業時間の短縮につながります。